

備前市事務事業評価表

(平成17年度事業)

事務事業名	河川改良事業(備前)		コード	担当課係	都市整備課 土木係
			01-03-01-02	担当者	小川 勝巳
事業実施期間	H17		電話	0869-64-1835	
総合計画 事業(政策)体系	大項目	安心で快適に暮らせるまちづくり			
	中項目	災害に強いまちづくり			
	小項目	河川改修・砂防施設整備			
	施策	市管理河川の改修整備			

事業について	
目的	未整備の自然護岸、老朽石積護岸及び通水断面の狭小な河川が決壊・氾濫の原因にならないように河川整備を進めていく。
対象(誰のために)	未整備の自然護岸、老朽石積護岸及び通水断面の狭小な河川。
内容	各地区からの要望により、改良箇所を決定し年間数箇所事業を行う。また、改良延長が長い箇所については年次的に継続事業として行う。

事業の結果								
実施項目	17年度							
	回数など	(単位)		回数など	(単位)		回数など	(単位)
改良箇所	22	箇所						
(要望数)	23	箇所						
事業費 (単位:千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	45,697	国庫補助金等	0	直接事業費		国庫補助金等	
	人件費	6,387	受益者負担	0	人件費		受益者負担	
	合計	52,084	一般財源等	32,884	合計	0	一般財源等	0
必要人員	0.97	人						人
結果指標①	結果指標名	改良箇所						
	結果指標量	22						
	単位	箇所						
	対前年比	0.00%						
結果指標②	事業費	52,084,000	円		円		円	
	単位当たりコスト①	2,367,455	円		円		円	
	結果指標名	改良箇所						
	結果指標量	22						
単位	箇所							
対前年比	0.00%							
事業費		円		円		円		
単位当たりコスト②		円		円		円		

事業の成果			
成果指標名	達成率	式又は説明	17年度実施箇所数(改良箇所) 16年度要望箇所数(改良箇所)
	17年度		
成果指標量	96%		
対前年比	—	0.00%	
到達目標値	100%	到達目標年度	毎年

事務事業の評価		課題認識
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	未整備の河川を計画的に整備していくことは、不測の豪雨による災害を未然に防ぐためにも、不可欠である。
	対象の妥当性	
	市民ニーズの妥当性	
市の関与の妥当性	市の関与の妥当性	
	市民の関与の妥当性	
効率性の評価	コストの効率化	工法選定については、設計マニュアル等がありコスト削減は困難であるが、簡易的な測量・設計業務は、担当係で行っている。
	手段の最適化	
	職場の効率化	
有効性の評価	目的達成度	大規模な河川改修の要望箇所については対応できていないが、歴年の河川改修により未改修河川(箇所)が年々減少しているため、後背地への被災が減少している。
	成果向上の可能性	
	市民参画度	

総合評価	コメント	評価区分
	予算(事業費)縮小傾向の中、災害防止には不可欠な事業であるため、後背地(家屋・農地等)への直接的な被災防止効果を十分検討の上、箇所(優先順位)決定をし事業を進めていく必要がある。また、自然環境を考慮した工法を検討し採用していく必要がある。	<A~E> C

今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する <input type="checkbox"/> 完了・統合	
翌年度結果指標量①	達成率	結果指標量②
目標値	成果指標量	100%

改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
妥当性	投資効果の有効箇所の検討	H15~	降雨時の家屋・農地への直接的な被災防止

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である結果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。